



麻疹（はしか）のおはなし

昨年も麻疹のお話をしましたが、麻疹感染者の報告が埼玉・東京・滋賀・大阪・京都など日本各地で相次いでいます。アメリカではこどもの死亡例も報告されています。

麻疹は感染者と同じ部屋にいただけで感染し、免疫を持っていない場合、100%発症します。合併症として肺炎、脳炎、心筋炎、中耳炎、クループ症候群などがありますが、抗ウイルス薬がなく命に関わることもあります。「こどものうちにかかれば軽く済む」ということもありません。

麻疹は、マスクや手洗いで予防することができません。有効な予防法は予防接種のみとされています。**現在、武田薬品が麻疹風疹混合ワクチンの出荷停止が続くことを発表しています。**1歳を過ぎたら1回目を、年長児クラスのお子さんは2回目の予防接種をご検討ください。早目の予約をお勧めいたします。

目安を守って、元気に登園しよう

熱やおう吐、下痢などからの病み上がりは、家では元気でも、園で長時間過ごすまでには回復していないことはよくあります。そんな時期に無理をすると、ぶり返してかえって長引くおそれがあるので、登園再開の目安を守って、しっかり回復する時間をとってください。

熱

解熱剤を使用せず
解熱してから24時間以上
経過している

おう吐

- ・ 前日(24時間以内)に、
おう吐がない
- ・ 普段通り飲食しても
吐かない

下痢

普段通りの食事ができ、下
痢が止まって普通便に
なっている

感染症は、
登園再開の
目安が決まっ
ています。
診断を受け
たら園に
ご連絡
ください。

最近よく聞く百日咳ってどんな病気？

コロナ禍では息を潜めていた百日咳ですが、一昨年あたりから患者数が増え始め、今年に入り全国的に急増しています。岩手県も例外ではありません。

幼少期から三種・四種・五種混合ワクチンを受けてはいるものの、終生免疫は得られません。接種から数年～十数年たてば効果が薄れることも分ってきました。そのため、大人もこどももかかってしまうことがあるのです。

百日咳は風邪症状から始まり、徐々に激しい咳や夜間の咳の悪化がみられるようになります。いつもの風邪と咳の感じが違う、薬をもらったけど咳が長引いて苦しくなると感じたら、お医者さんに相談しましょう。

新年度がスタートして、あっという間に1か月がたちました。子どもたちは新しい環境にもだいぶ慣れてきましたが、少し疲れが出てくるころかもしれません。体調管理に注意しましょう。

4月半ばから、熱と
咳を伴う風邪のお子さん
がみられます。受診後も症状が
ひどい時は無理をせずおうちで
様子をみましょう。

内科健診・5月28日(水)

12:30～

歯科健診・6月12日(木)

12:30～

